

エコアクション21 環境経営レポート

対象期間 2023年8月～2024年7月



株式会社 千曲ライト

<http://www.chikumalite.jp>

認証 ・ 登録番号0002401

発行日 2024年10月 25日

目 次

事業概要	3
環境経営方針	4
環境への負荷の状況	5
2023年度の 環境経営目標(数値目標－1) 実数	6
2023年度の環境経営目標(数値目標－2) 原単位	7
2023年度の環境経営計画	8
2023年度の環境経営計画	107536
実績と評価	9
環境負荷実績	9
環境経営目標の達成状況（実績）	10
環境関連への対応実績	15
2024年度の活動計画	17
2024年度の環境経営計画	17
環境関連法への違反、訴訟の有無	19
代表者による全体の評価と見直し・指示	19



事業概要

1. 事業名及び代表者名

株式会社 千曲ライト
代表取締役 宮原宏一
対象期間 2023年8月～2024年7月

2. 所在地 #####
〒386-0013
長野県上田市中央東2番9号

3. 環境管理者及び担当者連絡先

環境最高責任者 代表取締役 宮原宏一
環境統括責任者 専務取締役 宮原正司
環境管理責任者 管理部長 春原和彦

連絡先 電話 0268-22-1456
FAX 0268-25-1484
E-mail chikumal@nifty.com

4. 創業 1949年(昭和24年)

5. 資本金 1,500万円

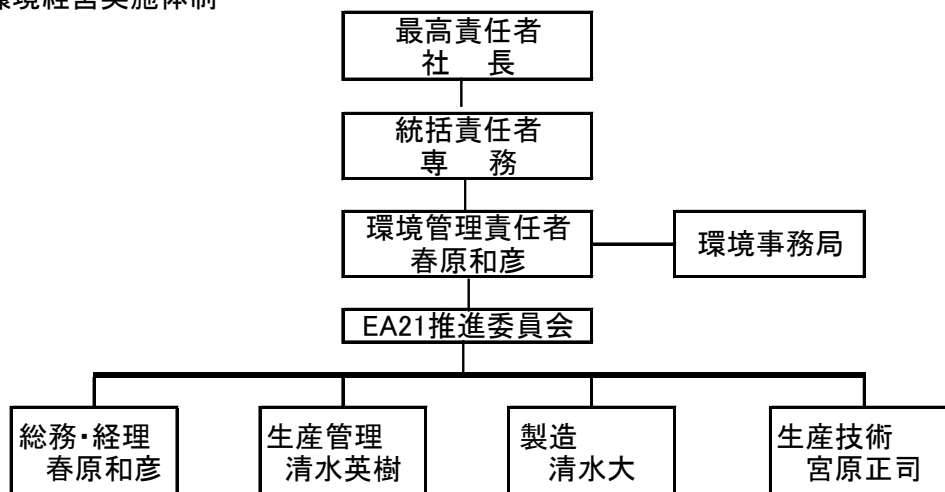
6. 事業内容 プラスチック製品製造及び組立

7. 事業年度 8月～翌年7月

規模	単位	2021年度	2022年度	2023年度
売上高	百万円	284	162	150
従業員	人	17	18	18
床面積	m ²	1144	1144	1144

9. 認証・登録の対象範囲 本社・本社工場

10. 環境経営実施体制



株式会社千曲ライト環境経営方針

2024年10月1日

[環境理念]

株式会社千曲ライトは事業活動と地球環境との調和を目指し、環境保全に積極的に取り組み、よき企業市民としての社会的責任を果たしてゆく。

[環境経営方針]

株主##

生産過程および製品・サービスにおける環境影響要素に関して環境マネジメントシステムを構築し、継続的改善を図るため、以下の活動方針を定め全社を挙げて取り組む。

1. 環境活動の法律・条例およびその他の要求事項を遵守する。
欧州RoHS指令の特定有害10物質(カドミウム・鉛・水銀・六価クロム・PBB・PBDE・DEHP・BBP・DBP・DIBP)を消滅するために可能な限り、代替技術、代替材料を採用する。
2. 当社の事業活動及び製品又はサービスにより環境への影響がある事柄のうち次の項目を環境管理重点テーマとして取り組む。
 - (1) 投入プラスチック原料の工程内還流を進め、廃プラスチックの排出量の削減とリサイクルの推進に取り組む。
 - (2) 工場における電力使用量の効率化による省エネルギーの推進を図る。
 - (3) 一般廃棄物の発生量を削減する。
 - (4) 節水に努め、排水量を削減する。
 - (5) グリーン購入製品やサービスを購入する際に、環境を考慮して、必要性をよく考え、環境への負荷が出来るだけ少ないものを選んで購入する。
3. 当社の存する周辺地域の環境保全活動に積極的に参加する。
4. この方針を実現するため、環境目的・目標と活動計画を策定し、実施・運用と継続的な改善を図るとともに、定期的に見直しを行う。
5. 環境経営方針は全社員に周知徹底し、環境意識の高揚を図る。

2002年11月20日制定

2006年10月1日改定

2010年10月1日改定

2016年3月1日改定

2018年7月10日改定

最高責任者

株式会社千曲ライト

代表取締役 宮原宏一

環境への負荷の状況

1. 実績推移

2024.7

項 目		単位	2021年度 21.8-22.7	2022年度 22.8-23.7	2023年度 23.8-24.7
温室効果ガス排出量	対象期間	Kg-CO ₂	139,735	123,222	104,601
廃棄物排出量	再生利用	t	12	8.7	107536
	単純焼却	t	0.16	0.21	0.082
	最終処分量	t	3	6	4
総排水量	下水道	m ³	442	376	314

2. 環境への取組の自己チェックと評価

2024.7

施 策 内 容	評価点	満点の場合 の点数	実施度%
総 合 結 果	387	392	98.7
1.事業活動へのインプットに関する項目			
(1)省エネルギー	128	128	100.0
(2)省資源	44	44	100.0
(3)水の効率的利用及び日常的な節水	37	40	92.5
(4)化学物質使用量の抑制及び管理	4	4	100.0
小 計	213	216	98.6
2.事業活動からのアウトプットに関する項目			
(1)温室効果ガスの排出抑制	8	10	80.0
(2)廃棄物等の排出抑制、リサイクル、適正処理	98	98	100.0
(3)生活環境に係る保全の取組み等	4	4	100.0
小 計	110	112	98.2
3.製品及びサービスに関する項目			
(1)グリーン購入	22	22	100.0
(2)製品及びサービスにおける取組	30	30	100.0
小 計	52	52	100.0
4.環境コミュニケーション及び社会貢献	12	12	100.0
小 計	12	12	100.0

3. 環境経営目的

過去の環境への負荷状況・取組の自己チェック結果を基にして環境経営活動の目的を設定した。

(1)廃棄物排出量の削減

廃棄物等の適正処理(廃プラの削減)の取組

廃棄物の発生そのものを抑える取組

成形加工時の不良削減への取組

(2)二酸化炭素排出量の削減

電気・都市ガス・自動車の燃料使用量の削減を図る取組

(3)総排水量の削減

節水意識の向上と水の効率的利用の取組

漏水発生の早期における発見の取組

(4)グリーン調達(RoHS指令)

特定有害10物質の含まれている材料の使用禁止

(5)グリーン購入

107536

環境への負荷が出来るだけ少ない事務用品・生活用品を購入する。

(6)地域社会との環境保全活動

自治会主催の河川清掃活動に積極的に参加する。

(7)環境教育

従業員等への教育・防災訓練の実施及び意識の向上に努める。

4 .環境経営目標（数値目標）

(1) 数値目標-1（実数）

2018年度を基準として2021年度～2023年度の3年間で廃棄物排出量は3.0%、
二酸化炭素排出量は3.0%・総排水量は3.0%削減する。

2018年度を基準としたのは2019年度は新型コロナウイルスの影響など
により通常とは異なる経済活動のため基準にすることは適さないため

2023.8

目的	環境経営目標 2023年7月末までに(2018年度の基準に対して)	単位	2018年度の基準係数	2021年度	2022年度	2023年度
二酸化炭素排出量の削減	排出量	二酸化炭素排出量3年間で3.0%削減(電気・ガス・自動車燃料廃棄物)	kg-co2	141,614	139,490	138,782
				(△1.5%)	(△2.0%)	(△3.0%)
	使用量	電気使用量 3年間で3.0%削減	kwh	251,299	247,530	246,273
			kg-co2	113,587	111,883	111,315
				(△1.5%)	(△2.0%)	(△3.0%)
		都市ガス使用量3年間で3.0%削減	m³	5,061	4,985	4,960
			kg-co2	10,997	10,832	10,777
				(△1.5%)	(△2.0%)	(△3.0%)
		自動車燃料3年間で3.0%削減	ガソリン L	1,492	1,470	1,462
			kg-co2	3,511	3,458	3,441
			軽油 L	2,011	1,981	1,971
			kg-co2	5,238	5,159	5,133
				(△1.5%)	(△2.0%)	(△3.0%)
		車の燃料 合計 ガソリン+軽油	L	3,503	3,450	3,433
			kg-co2	8,749	8,618	8,574
				(△1.5%)	(△2.0%)	(△3.0%)
総排水量の削減	使用量	水道使用量3年間で3.0%削減	m³	572	563	561
				(△1.5%)	(△2.0%)	(△3.0%)
製品・サービスの改善	廃プラ等廃棄物3年間で3.0%削減		t	3.44	3.39	3.37
			kg-co2	8,281	8,157	8,115
				(△1.5%)	(△2.0%)	(△3.0%)
	製品不良率の削減 0.2%以下		%	0.30	0.11	0.11
				—	(△0.01%)	(△0.01%)

(2) 数値目標-2) 原単位

- ・目標値は製品売上高100万円当たりの二酸化炭素排出量
- ・2018年度を基準として2021年度～2023年度の3年間で二酸化炭素排出量を2.0%削減する。

目的	環境経営目標 2023年7月末までに(2018年度の基準に対して)	単位	2018年度の基準係数	2021年度	2022年度	2023年度
二酸化炭素排出量の削減	二酸化炭素排出量3年間で2.0%削減(電気・ガス・自動車燃料廃棄物)	kg-co2 / 百万円	977	962	957	957
				(△1.5%)	(△2.0%)	(△2.0%)
	電気使用量 3年間で2.0%削減	kwh / 百万円	1,733	1,707	1,698	1,698
		kg-co2 / 百万円	783	772	768	768
				(△1.5%)	(△2.0%)	(△2.0%)
	都市ガス使用量3年間で2.0%削減	m ³ / 百万円	35	34	34	34
		kg-co2 / 百万円	76	75	74	74
				(△1.5%)	(△2.0%)	(△2.0%)
	ガソリン	L / 百万円	10	10	10	10
		kg-co2 / 百万円	24	24	24	24
	軽油	L / 百万円	14	14	14	14
		kg-co2 / 百万円	36	36	35	35
	車の燃料合計 ガソリン+軽油 3年間で2.0%削減	L / 百万円	24	24	24	24
		kg-co2 / 百万円	60	60	59	59
				(△1.5%)	(△2.0%)	(△2.0%)
総排水量の削減	水道使用量3年間で2.0%削減	m ³ / 百万円	3.9	3.9	3.9	3.9
				(△1.5%)	(△2.0%)	(△2.0%)
製品・サービスの改善	廃プラ等廃棄物3年間で2.0%削減	t / 百万円	0.024	0.023	0.023	0.023
		kg-co2 / 百万円	57	56	56	56
				(△1.5%)	(△2.0%)	(△2.0%)
	製品不良率の削減 0.2%以下(実数と同じ)	%	0.30	0.11	0.11	0.10
			-	(△0.01%)	(△0.01%)	(△0.01%)

* 2018年度の基準係数は 2017年度・2018年度の実績を平均し算出した。

* 購入電力の排出係数は中部電力ミライズの2018年 0.452(kg-co2)を用いて算定した。

基準係数算定にあたり2017年度・2018年度を上記排出係数で引き直して算定した。

水道使用量は2017年度は漏水の影響が考えられるので2018年度のみの数値とした

* 製品売上高は、総売上高-金型代-外注仕入＝製品売上高で算出した。

5.環境経営計画

(対象期間) 2023年8月～2024年7月

環境経営目標			2023年度 目標	担当 部署	担当者	実施事項	
目標2024年7月末までに(基準年 2018年度比)							
二酸化炭素排出量の削減 3.0%削減			137,366kg -CO2			廃プラスチック・電気使用量・都市ガス使用量・車燃料使用量の各環境 目標を実施事項推進により削減する。	
製品・ サービスの改善	廃棄物 排出量の削減	産業廃棄物 (廃プラスチック) を 3.0% 削減する	3.30t	製造 ・ 生産 管理	宮原(正) 清水大	1.廃プラの発生防止(成形時の不良発生防止) ①外観検査の定時点検の実施(4回/日 実施) ②成形品の品質チェックを1時間ごとに実施する。 ③不良成形品の早期発見・早期対応により 成形時の不良率低減 目標0.20%以下 ④金型管理カードによる金型の定期的なメンテナンスの実施 ⑤多品種少量生産、同じ成形機で同一材料の製品は 連続成形を行い材料変更時のダンゴ発生を最少にする 2.廃プラの処理 ①廃プラをリサイクル材と廃プラに区分する。 ②リサイクル材のウエイトを高める。 3.社内パトロール(整理整頓ほか)を月1回実施する。 工場内の整理整頓	
	製品不良率	製品不良率の削減 0.2%以下	(実数) 0.1%	管理	春原(和)	①製品不良率の削減を最重要課題とする ②製作難度が高くなる中不良率削減手順を改め周知徹底する	
二酸化炭素排出量の削減		電気使用量を 3.0%削減	243,760 kwh	製造	春原(和) 清水大	・不要な照明の消灯の徹底 ・離席時のディスプレイの電源OFF ・温調機・成形機など必要時以外は電源をOFFする。 ・コンプレッサーのエアー漏れの点検 ・不良成形の削減により成形機稼働時間の短縮	
		ガス使用量を 3.0%削減	4,909m ³	総務	春原(和) 小山	・冷暖房の設定温度徹底――暖房 21℃ 冷房 30℃ ・ブラインド、よしず等により日射を遮蔽する ・空室時エアコンの電源OFF ・エアコンのフィルター清掃	
		ガソリン使用量を 3.0%削減	1, 447L	営業 総務	丸山 春原(和)	・納品の効率化(ルート運行・納品頻度の見直し) ・エコドライブの励行(急加速、急停車の回避) ・アイドリングストップ	
		軽油使用料を 3.0%削減	1, 951L			・車両の冷暖房の控え目使用 ・宅急便の有効活用	
総排水量の削減		水道使用量を 3.0%削減する	555m ³	製造	小山 春原(和)	・水道料を注視し漏水のチェックを実施していく ・クーリングタワーの節水(冷却水の循環化) ・トイレの節水・流しの節水 ・感染症対策で流水での手洗いを励行するが、蛇口の締め漏れのないようしっかり閉める。	
グリーン調達 (RoHS指令)		特定有害10物質の 含まれている材料 の使用 禁止		管理	宮原(正) 丸山	・10物質(鉛・カドミウム・水銀・六価クロム・PBB・PBDE・DEHP・BBP DBP・DIBP)の含まれている材料は使用禁止 ・顧客の要求に対しては、材料の非含有証明書をメーカーより 取寄せ、回答する。	
グリーン購入		環境に配慮した事務用品等の使用		管理	春原(和)	・事務用品や生活用品の購入はエコマークの有る商品を優先する。 ・用品の必要性も検討する。	
地域社会との環境保全活動		自治会主催の河川清掃 活動に積極的に 参加する		管理	春原	春、秋の年2回参加する	
環境教育		従業員の環境意識の 啓発・環境学習 防災訓練を実施する		管理	春原 春原	・社内教育、環境方針、環境学習ほか ・防災訓練	

実績と評価

1. 環境負荷実績

(1) 負荷実績-1 [実数表示]

2024.8

目的	環境経営目標2023年7月末までに 2018年度の基準実績に対して2023 年8月～2024年7月	単位	2023.8-2024.7		増減	目標対比
			目標	実績		
二酸化炭素排出量の削減	二酸化炭素排出量2.0%削減(電気・ガス・自動車燃料・廃棄物)	Kg-CO ₂	137,366	107,536	△ 29,830	-21.7%
	電気使用量 3.0% 削減	Kwh	243,760	166,994	△ 76,766	-31.5%
	都市ガス使用量 3.0%削減	m ³	4,909	6,674	1765	36.0%
	ガソリン使用量 3.0%削減	L	1,447	1,487	40	2.8%
	軽油使用量 3.0%削減	L	1,951	1,032	△ 919	-47.1%
	廃プラスチック 3.0%削減	t	3.34	4.32	0.98	29.3%
総排水量の削減 水道使用量 3.0% 削減		m ³	555	314	△ 241	-43.4%

(2) 環境負荷実績-2 [原単位表示]

[製品売上高100万円当たりの二酸化炭素排出量]

2024.8

目的	環境経営目標 2023年7月末までに (2018年度の基準実績に対して)	単位	2023.8-2024.7		増減	目標対比	評価
			目標	実績			
二酸化炭素排出量の削減	二酸化炭素排出量 3.0% 削減	Kg-CO ₂ /百万円	957	1,032	75	7.8%	×
	電気使用量 3.0% 削減	Kg-CO ₂ /百万円	768	724	△ 44	-5.7%	○
	都市ガス使用量 3.0% 削減	Kg-CO ₂ /百万円	74	143	69	93.2%	×
	ガソリン使用量 3.0% 削減	Kg-CO ₂ /百万円	24	33	9	37.5%	×
	軽油使用量 3.0% 削減	Kg-CO ₂ /百万円	35	26	△ 9	-25.7%	○
	廃棄物排出量 廃プラ 3.0% 削減	Kg-CO ₂ /百万円	56	106	50	89.3%	×
総排水量の削減 水道使用量 3.0% 削減		m ³ /百万円	3.9	3.0	△ 1	-22.8%	○

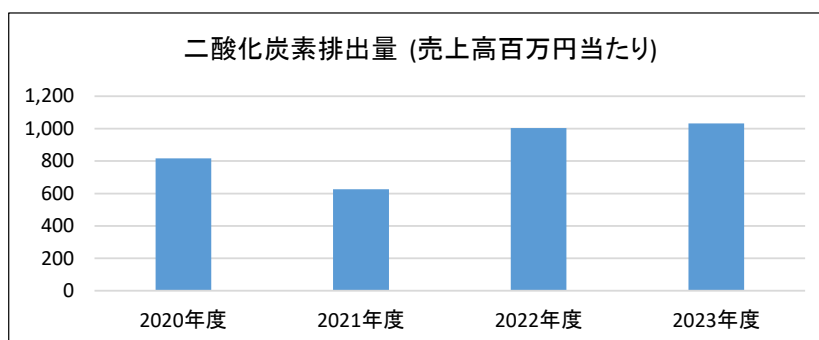
* 購入電力の排出係数は目標設定時の中部電力の2018年度 0.452(kg-co2)を用いて算定した。

2. 環境経営目標の達成状況（実績）

- ・2023年度は製品売上高 100万円当たりで(原単位)の数値で評価した。
- ・ガソリン、軽油は売上減少にも関わらず販路拡大訪問および価格交渉での訪問が増加した。
- ・廃プラの増加は倉庫、工場の整理として不要な材料やプラスチックケース等を処分した。

(1) 二酸化炭素排出量の推移

年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
Kg-CO ₂ /百万円	817	626	1,003	1,032

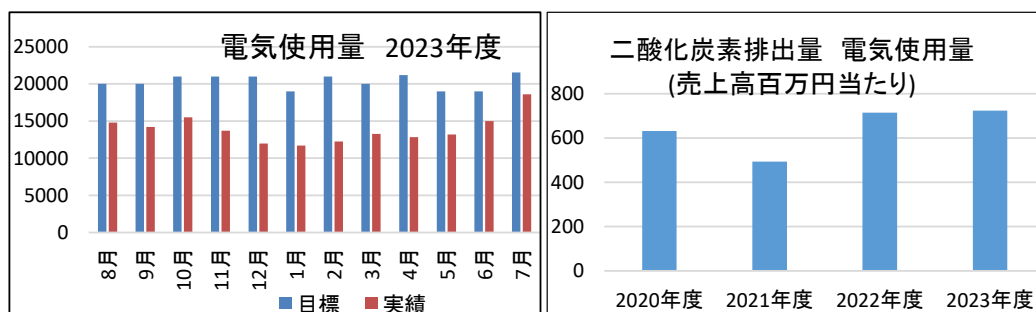


2023年度目標値-2	2023年度実績	目標対比	評価
957kg-co2/百万円	1,032kg-co2/百万円	7.8%	×

(2) 電気使用量による二酸化炭素排出量の削減

電気使用量による二酸化炭素の排出量の推移

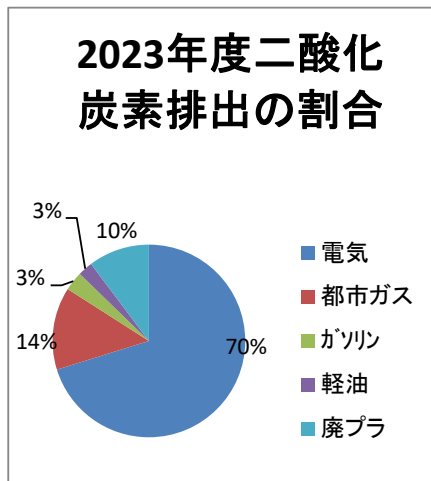
年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
Kg-CO ₂ /百万円	632	494	714	724



(数値目標-1の実績・実数)

(数値目標-2の実績・原単位)

2023年度目標値-2	2024年度実績	目標対比	評価
768kg-co2/百万円	724kg-co2/百万円	△5.7%	○



電力使用による二酸化炭素排出量が

当社排出量の70%を占めている。

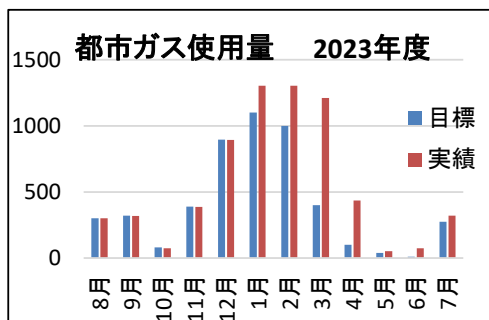
・成形機の製造時の製品不良も電気使用量の増減に関係するので不良率の削減に留意している。

・成形機未使用時の電源オフ・温調機のきめ細かな管理、不要照明の消灯等を実行している。

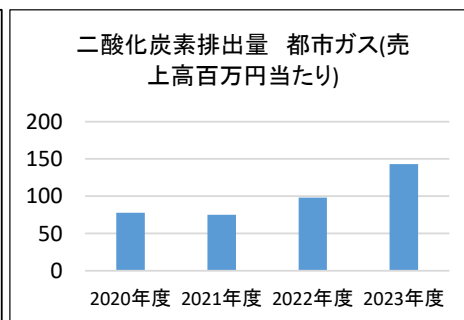
(3) 都市ガス使用量による二酸化炭素排出量の削減

都市ガス使用量の二酸化炭素排出量の推移

年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
Kg-CO ₂ /百万円	78	75	98	143



(数値目標-1の実績・実数)



(数値目標-2の実績・原単位)

2023年度目標値-2	2023年度実績	目標対比	評価
74kg-co2/百万円	143kg-co2/百万円	93.2%	×

・当社のエアコン(冷暖房)は都市ガスによるため、ガス使用量の9割はエアコンが占める。

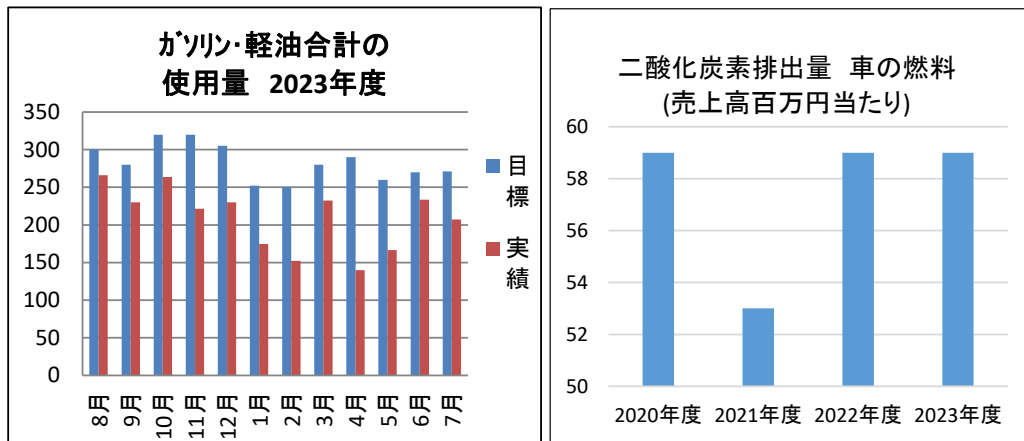
・エアコンの設定温度は、猛暑・熱中症対策につき冷房28℃で稼働時間が長くなった。

・未使用室での使用禁止、および着衣等で業務に影響せず制御できると思われる室温でのエアコンの使用制限を徹底した。ただしコロナ感染および熱中症防止の観点で流動的に適切に運用(換気、冷暖房)し、稼働時間は増加した。

(4) 自動車燃料(ガソリン・軽油)使用量の二酸化炭素排出量の削減

自動車燃料使用量の二酸化炭素排出量の推移

年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
Kg-CO ₂ /百万円	59	53	59	59



(数値目標-1の実績・実数)

(数値目標-2の実績・原単位)

2023年度目標値-2	2023年度実績	目標対比	評価
59kg-co2/百万円	59kg-co2/百万円	0.0%	○

二酸化炭素排出量

ガソリン車	目標に対し	37.5%
軽油車	目標に対し	△25.7%

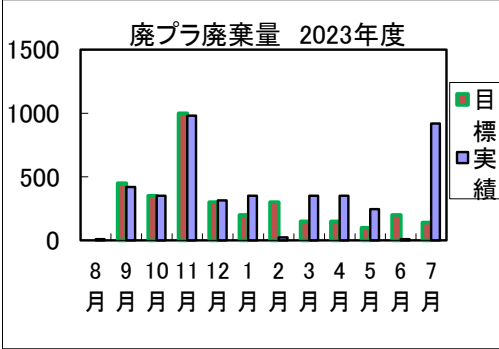
・納品業務(ガソリン、軽油自動車使用)効率化の推進----- ルート配送、納品頻度の見直しの実施をしている。

(5) 廃プラ廃棄量の削減による二酸化炭素排出量の削減

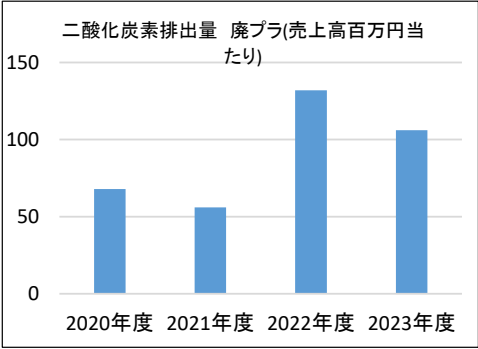
・2007年のエコアクション活動開始により毎年廃プラ削減運動に取り組んでおり、2021年度は製品売上の大幅増加に対し廃プラ廃棄量を3.2tと前年並に抑えることができた。2023年度は2022年度に引続き製品売上が大幅に減少したが、今後の繁忙時に備えた社内の整理整頓によるスペース確保のため、工場及び倉庫の不要な材料、プラスチックケースおよびトレイ等の廃棄を継続した。

廃プラの廃棄による二酸化炭素排出量の推移

年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
Kg-CO ₂ /百万円	68	56	132	106



(数値目標-1の実績・実数)



(数値目標-2の実績・原単位)

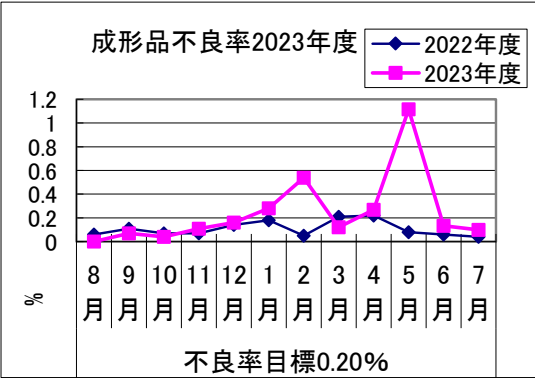
2023年度目標値-2	2023年度実績	目標対比	評価
56kg-co2/百万円	106kg-co2/百万円	89.2%	×

昨年に引続き工場、倉庫の整理を進め、不要な材料、プラスチックケース等大量廃棄

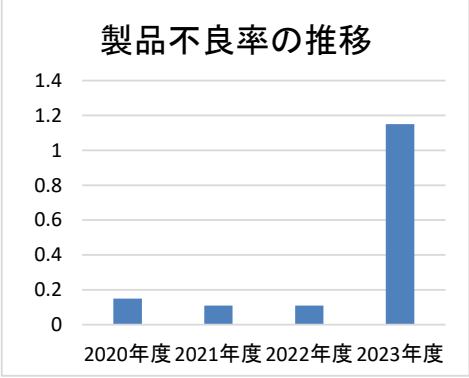
①廃プラ発生防止策

・廃プラ発生防止策の1項目として成形時の不良品削減運動を継続的に実施した。
・成形時の製品不良品の早期発見、早期対策により不良品の発生を防止し削減に取り組み廃プラの発生防止を図った。また、材料の歩留り向上のため捨て製品を不良に含め管理し一時的な不良率アップを容認のうえ廃プラ削減体制を再構築した。

②不良率の削減——上記の活動推進により不良率の年間の累積実績は2023年度は1.15%に上昇したが、2024年度は再構築体制により年間1.00%以下とする目標へ変更した。

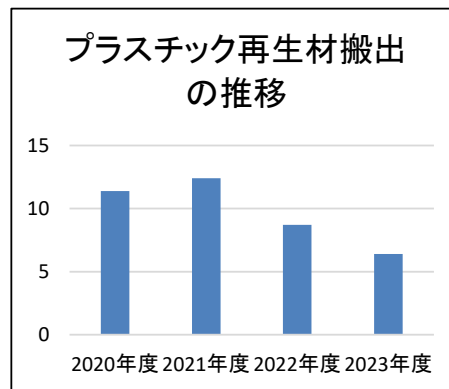
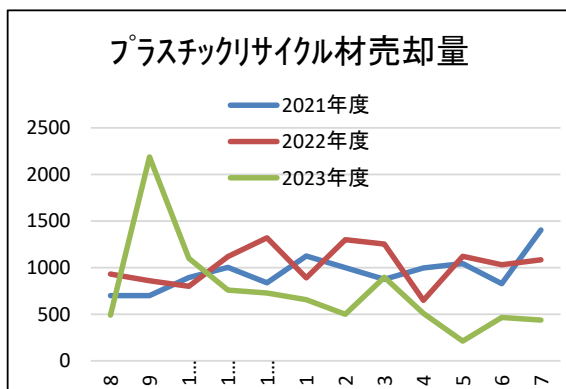


不良率目標0.20%



③ プラスチック再生材の搬出 （実数）

年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
搬出量 t	11.4	12.4	8.7	6.4



- ・分別によりリサイクル材の業者への搬出を強化。2019年度の搬出の減少はプラスチック樹脂材料の使用量の減少が主要因で、2022年度の搬出の減少は売上減少によるもの



(6) 一般廃棄物の削減。

- ・一般廃棄物の発生量を削減する。
- ・一般廃棄物を次のように分別し 回収は上田市が行い処分している。
 - ①資源ごみ(プラスチック) ②資源ごみ(紙類) ③燃えるごみ ④燃えないごみ
- ・資源ごみ(プラスチック・紙類)への増加のためゴミの分別回収を徹底している。

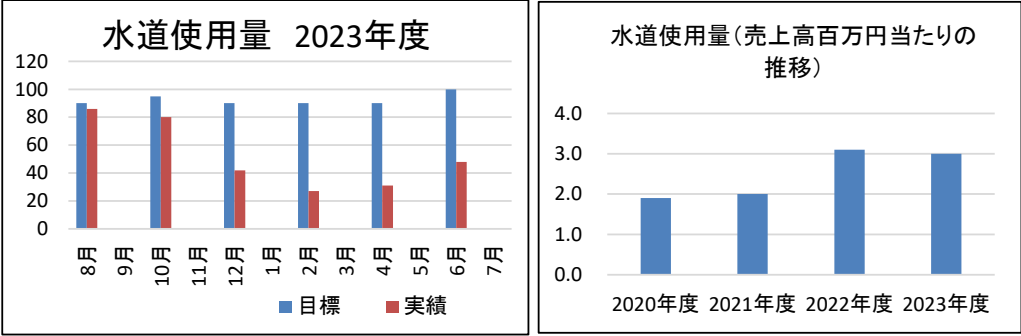


(7) 総排水量の削減

- ・水道使用量が当社の総排水量となる。
- ・水道使用量は前年度比16.5%減少し、原単位でも売上的大幅減少により0.05ポイント減少した。

水道使用量の推移

年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
m ³ /百万円	1.9	2.0	3.1	3.0



2023年度目標値-2	2023年度実績	目標対比	評価
3.9m ³ /百万円	3.0m ³ /百万円	△23.0%	○

3. 環境関連への対応実績

(1)グリーン調達(RoHS指令)

- ・特定有害10物質の含まれている材料の使用禁止
- ・取引先からの要求に対し全てクリアした。

(2)地域社会との環境保全活動

- ・2023年5月 地域自治会主催の河川清掃に参加
- ・2024年5月 地域自治会主催の河川清掃に参加

(3)教育訓練

- ・社内教育 環境方針 活動計画 啓蒙活動 手順書の再確認

(4)緊急事態の訓練実施状況

- ・2024年10月30日に、地震発生時の避難訓練を実施し、それぞれの役割分担の再確認および消火設備等のチェックを行い、地震発生時の対応を訓練した。

訓練内容

災害(地震)発生時における自衛消防隊の役割分担に従い初期行動訓練を実施

- ① 館内放送にて地震発生の場合図を発出
- ② 自分の身を守る行動をとる。(シェイクアウト訓練)
- ③ 館内放送にて地震の揺れがおさまった場合図(避難役割分担開始場合図)を発出
- ④ エアコンなどの都市ガスの元栓を閉める。(担当者)
- ⑤ 射出成形機の電源を落とす。(担当者)
- ⑥ 重要物品の格納(担当者)
- ⑦ 出火、逃げ遅れ者、怪我人等異常の有無を確認(担当者)
- ⑧ ヘルメットまたはキャップを着用し頭部を保護のうえの避難を徹底
- ⑨ 全員非常口より避難する。火災発生、建物損壊、室内の産卵等の状況により非常口は異なる点の確認
- ⑩ 火災発生による材料・製品への延焼を防ぐため、工場と倉庫の間のシャッター閉鎖(担当)
- ⑪ 避難場所での人員把握・応急救援措置

全員で以下の各項目確認

- ・ 消火器・火災報知器の設置場所 非常口の位置
- ・ 各人の役割



1.環境経営目標

目標値は製品売上高100万円当たりの二酸化炭素排出量を、2018年度を基準として2023年度以降の3年間で二酸化炭素排出量を4.0%削減する。2024年度は2年目につき3.5%削減とする。

対象期間 2024年8月～2025年7月

環境経営レポート 7ページ 数値目標-2 [原単位]を参照して下さい。

2.環境経営計画 対象期間 2024年8月～2025年7月(2年目)

二酸化炭素排出量の削減と経費の節減

・製品の加工時に発生する不良品 #####

最重点とする。

・不良品による廃プラの発生を削減する。

目標 製品不良率 1.00%以下に24年度より修正

(2024年8月～2025年7月)			売上高 百万円当 たり使用量	担当 部署	担当 者	実施事項		
環境経営目標								
目的	目標2025年7月 末までに(基準 年2018年度比)	2024年 度 目標						
二酸化炭素排出量の削減 3.5%削減			(実数) 136,658	952kg- co2		廃プラスチック・電気使用量・都市ガス使用量・車燃料 ・使用量の各環境削減目標を実施事項の推進により削減		
製品・サービスの改善	廃棄物排出量の削減	産業廃棄物 (廃プラスチック)を 3.5%削減する	(実数) 3.32t	売上高 100万円 当たり 使用量 0.023t	製造 ・生産 管理 管理	宮原 小山 春原 1.廃プラの発生防止(成形時の不良発生防止) ①外観検査の定時点検の実施(4回/日 実施) ②成形品の品質チェックを1時間ごとに実施する。 ③不良成形品の早期発見・早期対応により 成形時の不良率低減 目標1.00%以下にする。 ④金型管理カードによる金型の定期的なメンテナンスの実施 ⑤多品種少量生産、同じ成形機で同一材料の製品は連続 成形を行い材料変更時のダンゴ発生を最少にする。 2.廃プラの処理 ①廃プラをリサイクル材と廃プラに区分する ②リサイクル材のウエイトを高める 3.社内パトロール(整理整頓ほか)を月1回実施する。 ・工場内の整理整頓		
	製品不良率	製品不良率の 削減 1.0%以下	(実数) 1.0%	-	管理	春原 ①製品不良率の削減を最重要課題とする ②製作難度が高くなるなか不良率削減手順をあらためて周知徹底する		
二酸化炭素排出量の削減			電気使用量を 3.5%削減する	(実数) 242,504 kwh	百万円 当たり 1,690kwh	製造 清水	春原 ・不要な照明の消灯の徹底 ・離席時のディスプレイの電源OFF ・温調機・成形機など必要時以外は電源をOFFにする。 ・コンプレッサーのエア漏れの点検。 ・不良成形の削減により成形機稼動時間の短縮	
			ガス使用量を 3.5%削減する	(実数) 4,884m³	百万円 当たり 34m³	管理 製造	春原	・冷暖房の設定温度の徹底---暖房21℃ 冷房30℃ ・ブラインド、よしず等により日射をさえぎる ・空室時エアコンの電源OFF ・エアコンのフィルター清掃
			ガソリン使用量を 3.5%削減する	(実数) 1,440L	百万円 当たり 10L	営業 総務	丸山 春原	・納品の効率化(ルート運行・納品頻度の見直し) ・宅急便の有効活用 ・エコドライブの励行 (急加速・急停車の防止) ・アイドリングストップ
			軽油使用量を 3.5%削減する	(実数) 1,941.L	百万円 当たり 14.0L			・車両の冷暖房の控え目使用
総排水 削減の	水道使用量を 3.5% 削減する	552m³	百万円 当たり 3.8m³	製造	小山 春原	・水道量を注視し漏水のチェックを実施していく ・クーリングタワーの節水、清掃・点検(冷却水の循環化) ・トイレの節水・流しの節水 ・感染症対策で流水によるチェア来を励行するが、蛇口の閉め忘れ、垂れ流しの無いようしっかり閉める。		

環境経営目標			売上高 百万円当 たり使用量	担当 部署	担当 者	実施事項
項目と 目的	目標2025年7月 末までに(基準 年2018年度比)	2024年度 目標				
グリーン 調達 (RoHS指 令)	特定有害10物質が含ま れている材料の使用禁 止			管理	宮原 丸山	・10物質(鉛・カドミウム・水銀・六価クロム・PBB・PBDE・DEHP・ BBPDBP・DIBP)の含まれている材料は使用禁止 ・顧客の要求に対しては、材料の非含有証明書をメーカーよ り取寄せ、回答する。
グリーン 購入	環境に配慮した事務用 品等の使用とその用品 の必要性の検討			管理	春原	・事務用品や生活用品の購入はエコマークの有る商品を優先する。 ・用品の必要性も検討する。
地域社会と の環境保全 活動	自治会主催の河川清掃 活動に積極的に 参加する			管理	春原	春、秋の年2回参加する
環 境 教 育	従業員の環境意識の 啓発・環境学習 防災訓練を実施する			管理	春原 春原	・社内教育、環境方針、環境学習ほか ・防災訓練

環境関連法への違反、訴訟の有無

I. 環境法規、およびその他の要求事項一覧

2024年8月点検

要求事項名称	法規制内容	判定
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	対象期間 2023年8月～2024年7月 マニフェスト管理	○
電気・電子機器に含まれている指定有害物質の使用禁止に関する指令(RoHS指令)	10物質の原則使用禁止 [鉛、カドミウム、水銀、六価クロム、PBB、PBDE、BEHP、BBP、DBP、DIEP]	○
市環境基本条例	廃棄物の排出の抑制 ・資源及びエネルギーの有効利用 ・環境の保全	○
騒音規制法・振動規制法(市環境基本条例内)	騒音規制・振動規制 準工業地域	○
消 防 法	消防用設備等の点検及び報告	○
家電リサイクル法	(2021年7月～2022年6月)	○
フロン排出抑制法	業務用エアコンの整備の際にフロン類を回収業者に引き渡す。	○

環境関連法及びその他の要求事項の遵守状況は、自ら遵法性を確認したところ、過去3年間に於いて違反は無く又、関係当局からの違反の指摘及び訴訟などありません。

2、外部からの苦情

過去3年間、近隣住民からの要請、苦情などはありません。

代表者による全体の評価と見直し・指示

原材料が必要な時に必要な量を確実に入荷することが困難になっているため、計画的な生産計画が立てづらく頻繁な段取り替えが必要であった。また材料費、光熱費等のコストの高騰により収益環境が短期間に悪化する1年間であった。

そのような状況下で、2023年度は2022年度に引続き売上の大幅減少があり、原単位が急変する中、目標に対する実績の適正値の予想がつきにくい状況にも関わらず、社員全員の地道な取組みの結果目標未達の項目があるものの、環境経営の将来に向けた基礎固めができたと確信している。

これはまた、現行の推進システムが有効に機能していることを立証するものであった。このような現状から2024年度は今まで実施してきた項目のうち、不良率の把握方法を材料の歩留まり向上を企図し見直したが、他の指針は継続することとした。

引き続き、製品不良率の改善につき重点的に取組むとともに、日常の生産活動に伴う廃プラの発生削減、電気・都市ガス・自動車燃料・水道使用量等の経費削減についても重点項目として推進していく。

CO2ゼロ電気の採用を検討する。